

ウィズ・コロナに向けた効果的な子どもたちへの 支援体制構築研究

～ストレス、ネット依存に焦点をあてて～

環境人間学部

○准教授 竹内 和雄（たけうち かずお）

キーワード

コロナ、ストレス、ネット依存、小学生、中学生、高校生

研究概要

コロナ禍で、子どもたちの日常生活にインターネット利用が深く浸透している。コロナ休校中だけでなく、日常生活でも外出が制限されたり、会話さえ制限されたりしている。さらに、GIGAスクール構想のため、小中学生には一人一台の情報端末が配布されたこともあり、インターネット利用は子どもたちにとって特別なことではなく、日常生活の一部になりつつある。本研究では、大阪府青少年課と共同研究し、2年にわたって、同じ調査を実施した。

具体的には、子どもたちのネットへの浸透具合について、キンバリー・ヤング氏作成の質問紙から探った。さらに、子どもたちの日常生活に、インターネットがどの程度浸透しているのかについても検討を加えた。

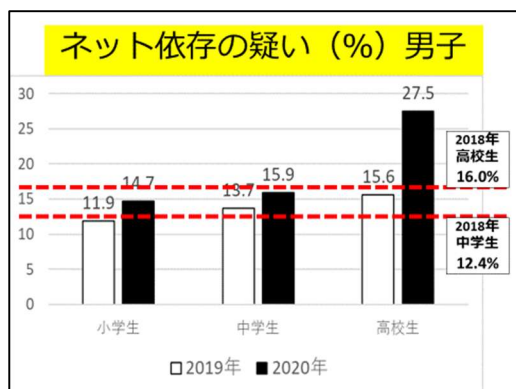


図1 ネット依存の疑い（男子）

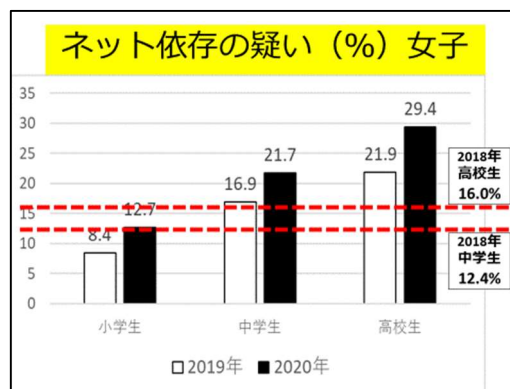


図2 ネット依存の疑い（女子）

アピールポイント

「コロナ禍で、子どもたちのインターネットに傾倒している」という報告は多いが、実際にデータで示した報告はない。本研究は、約2万人対象の大規模な調査であるので、信憑性も高い。

大阪府だけの調査であるので、全国的な傾向を断ずることはできないが、対象が異なるとはいえ2019年と2020年と続けて同じ地域で調査しているのので、経年での比較ができる点はアピールポイントである。

さらに本調査では、小学4年生から6年生を調査対象に加えているので、低年齢層へのインターネットの浸透具合についても明らかにできたことは重要である。